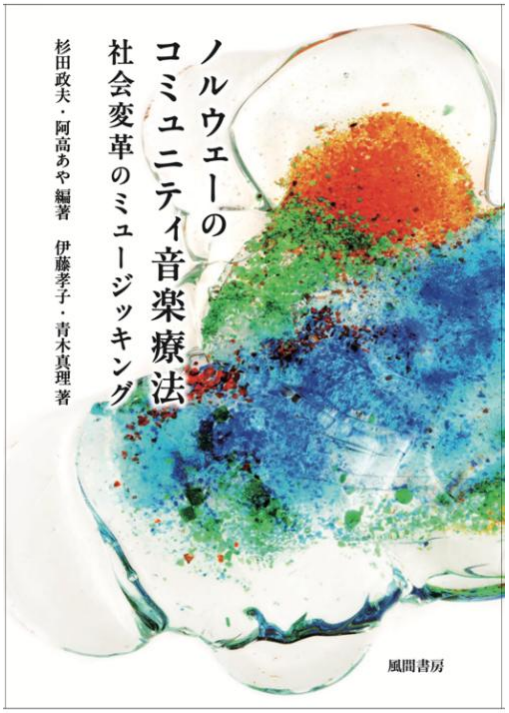
令和８年７月８日

コミュニティ音楽療法による社会変革に関する研究成果を発信
～『ノルウェーのコミュニティ音楽療法
—社会変革のミュージッキング』出版及び出版記念シンポジウム開催～

福島大学人間発達文化学類の杉田政夫教授をはじめとする研究グループは、音楽を人と人、人と社会をつなぐ営みとして捉え直し、その可能性を探究しています。このたび、その成果のひとつとして杉田教授を編著者とする『ノルウェーのコミュニティ音楽療法—社会変革のミュージッキング—』が刊行されました。

共編著者として、本学出身である阿高あや氏（東京大学大学院情報学環客員研究員）、共著者として伊藤孝子氏（名古屋芸術大学教授）・青木真理教授（本学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター）が名を連ねています。

この刊行を記念した出版記念シンポジウム「福島から考える芸術的市民権—学校・地域・社会変革のミュージッキング」も開催します。少子化や部活動の地域移行など、福島が直面する課題を踏まえながら、音楽文化の継承や文化芸術への参加のあり方について、教育・文化・地域づくりの視点から議論します。



◎本書の背景 —— 現代社会と音楽の位置

戦争や紛争、災害、感染症の拡大、少子高齢化による地域社会の変容など、現代社会は多くの課題に直面しています。こうした状況の中で、音楽や芸術はしばしば社会の周縁に置かれやすい一方、人々が他者との関係を結び直し、社会とのつながりを回復する契機ともなり得ます。本書は、音楽を単なる娯楽や教育活動としてではなく、参加、包摂、ケア、社会正義を考えるための社会的実践として捉え直し、その可能性を問い直すことを目的としています。

◎研究の出発点 —— 出会いと問題意識

本書は、人間発達文化学類の杉田政夫教授を中心とする研究チームによる長年の研究成果をまとめたものです。杉田教授は音楽教育学の立場から、音楽と民主主義、社会正義、地域社会との関係について研究を続けてきました。その過程でノルウェー国立音楽大学やベルゲン大学グリーグ・アカデミー音楽療法研究センター（GAMUT）との交流を重ね、コミュニティ音楽療法の理論と実践に着目してきた。本書は、音楽教育学、音楽療法学、臨床心理学、地域社会研究・災害復興研究を専門とする研究者が協働して執筆したものであり、福島大学を拠点として蓄積してきた国際共同研究と実践研究の成果を集大成したものとなります。

◎本書のねがい ―― 社会変革のミュージッキング

副題に掲げる「社会変革のミュージッキング」とは、音楽を作品や技術としてではなく、人々が関係を結び、参加し、互いに支え合う営みとして捉える考え方です。コミュニティ音楽療法は、個人の回復のみを目的とするのではなく、人々が社会の中で声を持ち、参加し、よりよい関係やコミュニティを創り出していくことを重視しています。本書では、音楽が人と社会の関係をどのように変え得るのかという問いを軸に、社会変革の可能性について考察しています。

◎本書の特質 ―― 理論・実践・制度・展開の構成原理

本書は、理論、実践、制度、日本での展開という四つの視点からコミュニティ音楽療法を総合的に考察しています。第一部では思想的・理論的背景を整理し、第二部では文化施設、医療、司法、更生支援などの現場における実践を紹介する。第三部では教育・研究・政策を支える制度的基盤を検討し、第四部では日本における実践研究を取り上げています。

とりわけ第四部では、福島大学地域未来デザインセンターの事業として、双葉町立ふたば幼稚園・双葉南小学校・双葉北小学校において本学教員・学生らが実施した音楽実践を収載しています。原子力災害後の避難・仮設教育環境における子どもたちの音楽活動を「芸術的市民権」の視点から分析し、コミュニティ音楽療法の知見が日本社会や被災地の教育実践にどのような示唆を与えるのかを検討しました。

◎想定する読者

音楽教育学、音楽療法学、音楽社会学などの研究者や学生だけでなく、学校教員、音楽療法士、心理職、医療・福祉関係者、行政職員、地域づくりや文化芸術活動に携わる実践者など、多様な読者を対象としており、また、音楽を通じた社会参加やコミュニティ形成、文化的包摂に関心をもつ市民にとっても、新たな視点を提供する一冊となっています。

図１　本書の構造：社会変革のミュージッキングをめぐる理論・実践・制度・展開

◎本書の読み方

本書は、理論から順に読み進めるだけでなく、実践事例や制度的展開、日本での実践研究など、関心のある章から読み始めることができる構成となっています。理論、実践、制度、日本での展開が相互に関連しながら展開され、最終的には「社会正義に向けた社会変革としてのミュージッキング」という問いへとつながる構造です。

＊本書は、福島大学基金研究推進事業の学術出版助成を受けて刊行されました。

また、本書の刊行を記念し「福島から考える芸術的市民権―学校・地域・社会変革のミュージッキング」と題したシンポジウムも開催いたします。

少子化や人口減少、学校部活動の地域移行などを背景に、地域における音楽文化の継承や、子どもたちの文化芸術への参加機会のあり方が問い直されています。福島県においても、学校、地域、大学、市民団体などが支えてきた音楽文化は大きな転換期を迎えています。

本シンポジウムでは、「芸術的市民権」や「ミュージッキング」を手がかりに、音楽が人と人、人と地域をつなぐ可能性について考えます。福島で進行するさまざまな変化を通して、「音楽は、人と社会の関係を変えうるのか」「誰が文化を支え、次世代へつないでいくのか」という問いに向き合いながら、音楽を通じた新たな公共性と社会のあり方を参加者の皆さまとともに探究します。

シンポジウムはどなたでもご参加いただけますので、こちらも併せて、ぜひ事前の告知および当日の取材をお願いいたします。

◎概要

■　日　　時：2026 年 7 月 20 日（月・祝）13:00～17:00
■　会　　場：福島大学音楽棟 音講室
　　＊申込多数の場合 L-4 に変更の可能性有り
■　参 加 費：無料
■　参加申込：https://forms.gle/e52Jba531HSY8n3Y7
　右の QR コードからも申込可能
■　申込締切：7 月 15 日（水）
■　プログラム：

開会演奏「夏の思い出」（江間章子作詞・中田喜直作曲）＊登壇者による合奏
開会挨拶　藤井 康之（奈良女子大学 教授）
解　題「音楽は人と社会の関係を変えうるか―芸術的市民権とミュージッキング」
　　座長　杉田　政夫（福島大学人間発達文化学類 教授）
基調講演①「『あそび』のないところから新しい世界は生まれない」
　　鈴木　大裕（教育研究者・高知県土佐町議会議員）
基調講演②「地域の文化共同体―学校と地域の音楽文化―」
　　戸ノ下達也（都留文科大学非常勤講師・全日本合唱連盟常務理事）
取組紹介（オンデマンド）「福島大学附属小学校合奏部の実践」
　　大槻　祐介（福島大学附属小学校音楽科主任・合奏部顧問）※

話題提供①「地域音楽教育における教育的公共圏の形成と再編
—FTV ジュニアオーケストラの半世紀」
阿高　あや（東京大学大学院情報学環　客員研究員）※

話題提供②「地域音楽文化はいかに継承されるか
—楽都郡山のオーケストラ実践から」
佐藤　睦浩（日本大学東北高等学校弦楽部コーチ／ヴィオラ奏者）

話題提供③「部活動の地域移行を“つなぐ”人たち
—小学校部活動と地域音楽文化の現在」
菊池　誠一（部活動保護者／トロンボーン奏者）※

話題提供④「音楽科授業における言語マイノリティ生徒の参加と
関係形成のプロセス」
大越　良子（高校音楽科非常勤講師）※

指定討論　渡邊　　拓（東京大学大学院博士後期課程）
大江　明子（福島大学大学院修士課程／山形県立高校音楽科教諭）

※は本学卒業／修了生。

（お問い合わせ先）
人間発達文化学類　教授　杉田　政夫
電　話：024-548-8235
メール：msugita@educ.fukushima-u.ac.jp